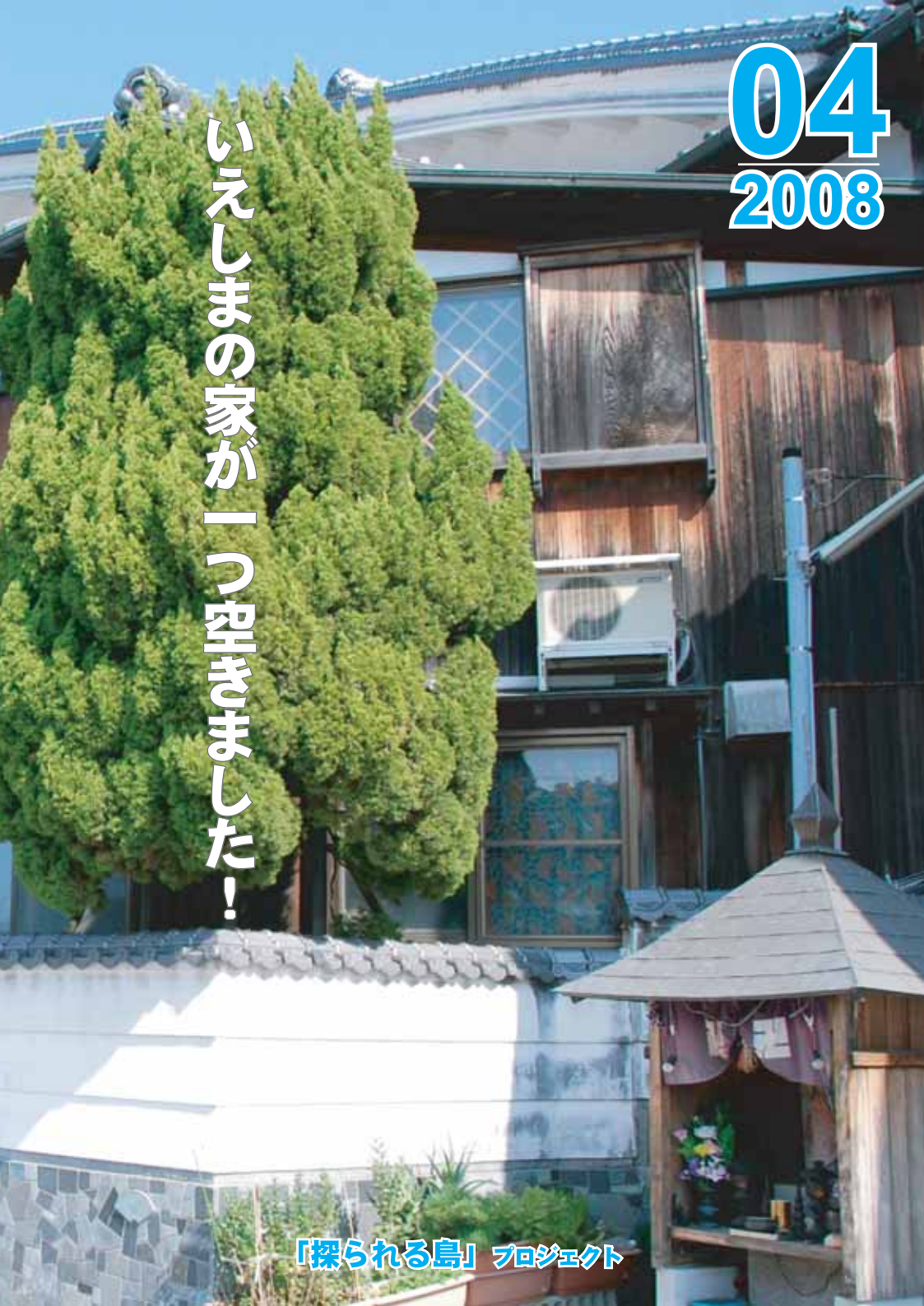


いえしまの家が一つ空きました！

04
2008

「探られる島」プロジェクト

何をするにもお金が必要

僕らは普段の生活において、都市の様々な場所を移動しながら何らかの行為をしている。電車やバスに乗りながら特定の生活行為のための場所を訪れ、目的を達成するとその場所を離れる。「学ぶ場所」としての大学や英会話教室、「遊ぶ場所」としてのテーマパークやゲームセンター、「働く場所」としてのオフィスビル、「食べる場所」としてのレストラン、「くつろぐ場所」としてのオープンカフェやスーパー銭湯、「寝る場所」としてのビジネスホテルやネットカフェ。これらの生活行為は都市のいろんな場所に散在している。それぞれの生活行為は個別化し、多くの場合はお金を払い、その対価としてそれぞれの生活行為を得ている。

大学で専門分野を学ぶ

英会話教室で語学を学ぶ

有名なテーマパークに遊びに行く

ゲームセンターで遊ぶ

バスで移動する

オフィスビルで働く

レストランで食事をとる

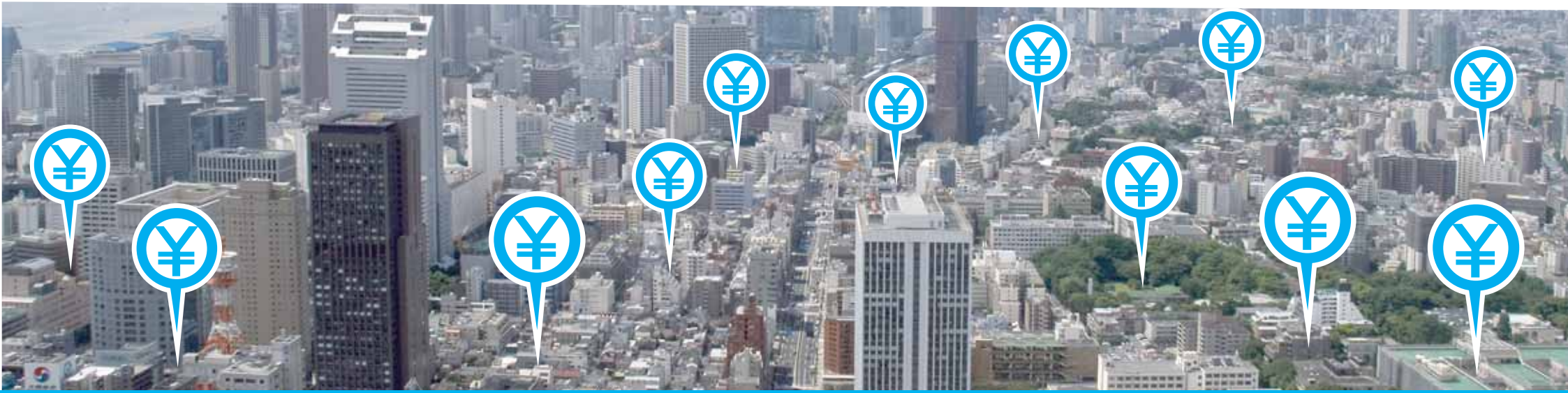
オープンカフェでくつろぐ

満員電車に揺られながら移動する

スーパー銭湯で一日の疲れを癒す

ネットカフェで情報を収集する

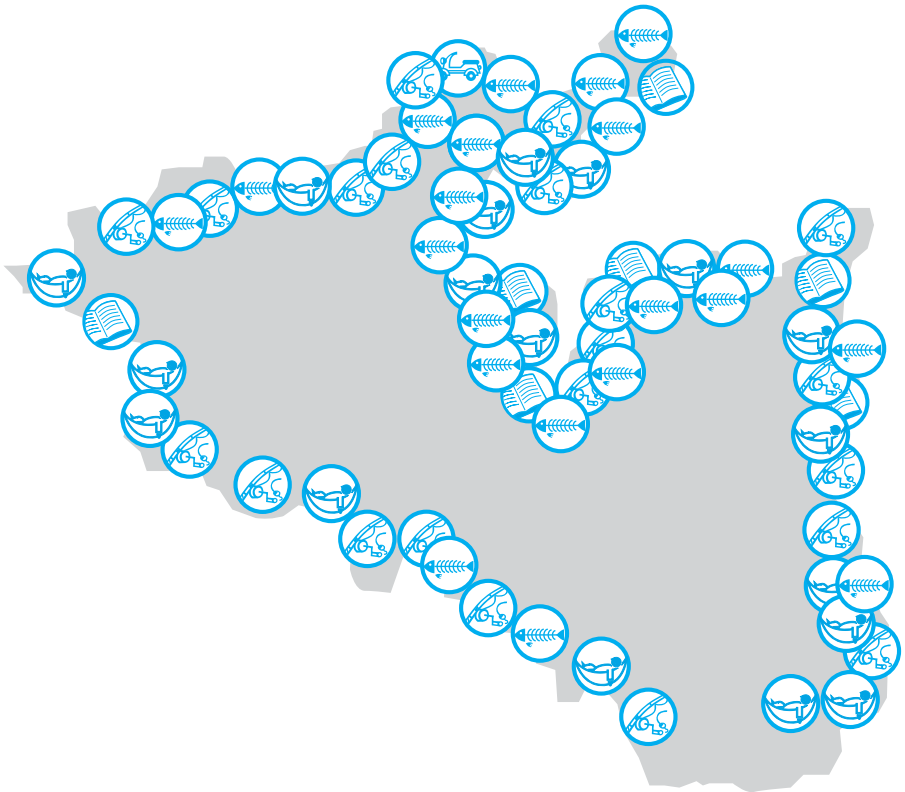
ビジネスホテルで一日を終える。



お金をかけずに海辺を楽しむ

いえしま(家島群島)は、最も多くの人が生活している家島本島でも周囲約15kmの大きさであるため、電車やバスといった移動手段が存在しない。島の地形は急峻で道が細いため、島の人たちは徒歩や原付を主な移動手段としている。いえしまは都市に比べて狭い範囲内で数多くの生活行為を満たしてくれる場所が存在しているようだ。特に今回、僕らがいえしまを訪れて驚いたことは、いえしまの「海辺」が数多くの生活行為を満たしてくれる場所であったことだ。いえしまの海辺はきれいに整備された空間とは言えないかもしれないが、昔から人々の日々の暮らしと密着した空間だった。だから島の人たちは楽しく・便利に生活するために海辺をうまく使いこなしてきた。今回僕らはいえしまの海辺を歩き回って、海辺でお金をかけずに享受できる生活行為の風景をたくさん写真に収めた。そして、それらの中から僕ら都市に住む僕らが面白いと感じた5つの行為を選び出した。

日々の暮らしと密着したいえしまの海辺



学ぶ

NPOの人たちから特産品の話を聞く

おかみさんから魚のさばき方を教わる

漁師の海の環境への取組みの話を聞く

いえしまの漁業の方法を学ぶ

おじさんからイカのさばき方を学ぶ

いえしまの産業について話を聞く

おすすめ海辺の道を教わる

海辺の歴史について話を聞く

いえしまの人たちは海辺に関する知識が豊富だ。僕らはいえしまの人たちと出会うことで、海辺の環境や歴史、生活の知恵など様々なことを学ぶことができる。

遊ぶ

子どもと一緒に遊ぶ

旬の魚を教えてもらう

釣りのコツを教えてもらう

子どもたちと一緒に魚を釣る

海辺の商店を探索する

海辺の面白い風景を写真に撮る

面白い漂流物を探す

海辺の空き家の中で遊ぶ

いえしまの海辺ではいろんな遊びを実践できる。特に島の子どもたちは楽しい遊び方を良く知っている。釣りや磯遊びに加えて、漂流物探しもおススメだ。

食べる

ワタリガニをもらう

山葡萄をみつける

エビを生きたまま食べる

アケビをもらう

海鮮バーベキュー

防波堤の上で干す野菜

「亀の手」を見つける

いえしまの子どもたちから魚をもらう

いえしまの海辺は食材の宝庫。運がよければ新鮮な海の幸を手に入れることができる。これらを海辺で食べることができれば最高だ。

くつろぐ

海で笛を吹く

海の景色を眺める

船の上で語り合う

防波堤で一服する

子どもと触れ合う

海へ飛び込む

井戸端会議に参加する

砂浜で涼む

いえしまの海辺は「くつろぎの空間」としてもってこいだ。入り江は波が穏やかで岬は景色がきれい。海をぼーと眺めるのも良いし語り合うのもいいだろう。

移動する

海辺の道を原付で移動する

波打ち際を歩く

海辺の近くの路地を歩く

桟橋の上を歩く

船で別の島に渡る

港の護岸を歩く

小型船で移動する

砂浜を歩く

歩く、原付で走る、船に乗る。いえしまの海辺では、移動すること自体が楽しい行為だと実感することができる。

いえしまの海辺をもっと楽しむ

海の生き物の豆知識

磯遊びのレクチャー

釣りの手ほどき

いえしまの海辺では「学ぶ」、「遊ぶ」、「食べる」、「くつろぐ」、「移動する」といった生活の中での楽しみを、お金をかけずに享受することができる。これらは、普段僕らが都市でお金を支払うことで得ている生活行為とは大きく異なる。「海辺が与えてくれるもの」は、季節や天候など環境の変化によって表情を変えることも特徴だ。時には厳しい表情を見せることもあるかもしれないが、一年中飽きることのないものを僕らに与えてくれる。さらに、いえしまで生活している人が一緒にいれば、より深いいえしまの海辺の楽しみを得ることができるようだ。「海の生き物の豆知識」、「磯遊びのレクチャー」、「釣りの手ほどき」、「秘密の絶景ポイントの紹介」、「漁船でのクルージング」など、予想もしていなかった体験につながることがある。だから、いえしまの海辺を歩く時には、島の人と積極的にコミュニケーションをとることが大切だ。いえしまの人たちは海辺ついて多くのことを知っているし、海辺を楽しむための色々な術を持っている。僕らはいえしまの人たちを通じて、いえしまの海辺から多くの楽しみを得ることができる。

秘密の絶景ポイント

海辺の空き家で滞在してみた

僕らは今回、いえしまの空き家で宿泊することになった。この空き家は、海辺にある豪華な日本家屋だ。所有する不動産会社のご好意で「海辺の生活体験」の拠点として活用させてもらうことになった。僕らは滞在中、海辺で食材を調達して自炊を行うことにした。最初はどうすれば食材を手に入れることができるのか分からなかった。でも、とりあえずいえしまの人たちに声をかけてみることからはじめてみた。すると、島の皆さんは僕らに対してとても親切に協力してくれた。漁師さんからは獲れたばかりの活きたエビやカニをいただくことができた。釣りをして遊んでいた子どもたちからは、釣れたばかりのたくさんの魚をもらうことができた。いえしまの海辺を歩くだけで思いもしなかった新鮮な海の幸を手に入れることができた。これは、いえしまの海辺が豊かな環境である証拠であり、島の人々の生活とも密接に関係している場所だからだと思った。調達できた食材は宿泊場所の空き家に持ち帰って調理を始めることとなった。調理する際にも、いえしまの人たちは僕らを助けてくれた。魚介類のさばき方やいえしま独特の調理法を熱心に教えてくれた。島の人たちが協力してくれたおかげで夕食はとても豪華なものとなった。夕食会には昼間に海辺で知り合ったいえしまの方々にも来ていただき、お金では買えない楽しく贅沢な時間を過ごすことができた。

島の人とのコミュニケーション

島の人からいろんな食材をいただいた

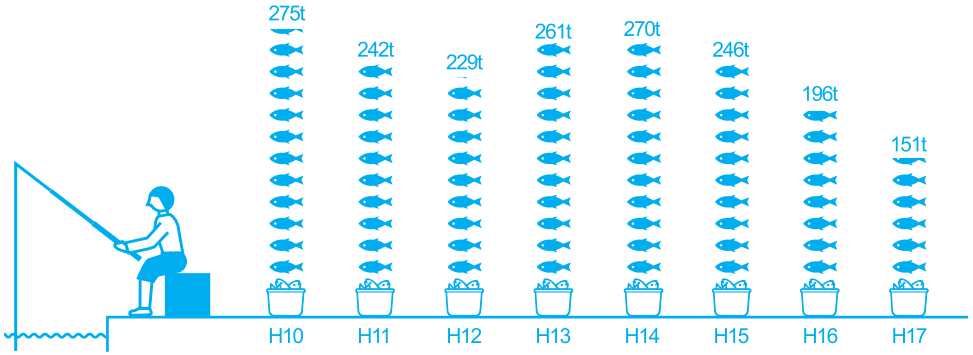
豪華な食事

「里海」について考える

漁業が栄える坊勢

海運業の基地

「里海」とは、人間が適切な管理をすることで海辺が本来持っている生物多様性や生物生産機能、環境浄化機能を維持している豊かな海を指す言葉らしい。いえしまの海辺は、島の人たちの生活、特に漁業との関わりの中で管理されてきた豊かな「里海」なのだと思う。しかし近年、いえしまの漁獲量は減少傾向にあるらしい。その確かな原因は定かではないが、いえしま周辺の海の環境の変化も影響しているのではないかと言われているようだ。そんな中、いえしまの漁業関係者自らが海辺の環境改善の取組みを始めたという話を聞いた。また、これまで海運の基地として栄えてきたエリアも、産業構造の転換期の中で今後のあり方が変わってくるかもしれない。いえしまの海辺は今まさに、人々の生活との関わりについて見つめ直し、新たな関わり方について考える時期に来ているのかもしれない。いえしまの昔からの海辺の使い方を再発見するとともに、新たな海辺の使いこなし方についても模索していくことで、いえしまの「里海」は守り育てられていくのだと思う。



姫路市の漁獲量(アサリ、エビ類、アナゴ、カレイ類、タコ類、スズキ)の推移

海辺を舞台に豊かな交流が生まれる島へ

「探られる島」プロジェクト2008は、平成20年の秋に家島本島・坊勢島での2泊3日のフィールドワークと大阪での4日間の会議を合わせた計7日間のワークショップの企画である。全国から多様な専門分野を持つ若者が集まり、「いえしまの海辺の楽しみ方」をテーマに宮地区にある空き家を宿泊拠点として海辺を探った。そして専門家のアドバイスを受けながら、メンバー全員で一つのコンセプトに沿って冊子にまとめた。それがこの「探られる島」プロジェクトブック04だ。プロジェクトの中では「今後のいえしまの海辺」についてもみんなで話し合った。高度経済成長期を中心に、海運業や採石業の基地として大きく変化してきたいえしまの海辺も、今後はそのあり方が変化していくように感じられた。そんな中でも僕らがいえしまの海辺を訪れて気づいたことは、いえしまの海辺は島の人たちの生活と密接に関係した「里海」と呼ぶことができる豊かな環境が残っており、都市部の人間が楽しいと感じられる海辺の過ごし方が潜在していることであった。だからいえしまは、今後むやみに「観光のための新しい海辺整備」をする必要はない、と僕らは考えている。今回僕らが感じた島の人たちの生活レベルでの楽しみ方を発掘し、島に訪れたひととの交流の中で、その楽しみ方を伝えていって欲しいと思う。僕らが今回の2泊3日のフィールドワークの結果から議論・考察した内容はいえしまの一側面を捉えているに過ぎないのかもしれない。いえしまにはまだまだ隠された魅力があるはずだ。だからこれからも僕らは新しい仲間を連れて、たびたびいえしまを探りに訪れたいと思う。

家島でのフィールドワーク

講師からのレクチャー

海辺の魅力に引き込まれる参加者

いえしま

兵庫県姫路市家島町は、姫路港の沖合い約18kmに位置している。東西26.7km・南北18.5kmにわたって散在する大小40余りの島々で、瀬戸内海国立公園特有の美しい多島海の景観を織りなしている。今回のプロジェクトで探る対象となった島は、姫路港から高速船で約30分の家島本島と坊勢島である。家島本島の真浦地区の海辺は海運業の基地が中心であり、ガット船と呼ばれる岩石を運搬する船が停泊する独特の風景を作り出している。また、いえしまは豊かな漁場としても有名であり、家島本島の宮地区と坊勢島の海辺は多くの漁船が停泊する漁港となっている。自然海岸も数多く残されており、美しい自然景観とともに貴重な動植物なども確認されている。本プロジェクトでは家島(家島本島)と家島群島との混同を避けるため、家島本島を漢字で「家島」、家島群島全体をひらがなで「いえしま」と使い分けて表記している。

写真左上　真浦地区
写真右上　宮地区
写真左下　坊勢地区

「探られる島」プロジェクト2008

メンバー
岡崎 照 / 大坊 忠将 / 谷 和典 / 宮崎 みずほ / 塩入 友恵 / 村田 庸介 /

アドバイザー
多喜 敦 / 松本 ひろこ / 山崎 亮

「探られる島」プロジェクト実行委員会
岩本 陽子 / 小島 雅也 / 高島 一彰 / 中村 有作 / 福田 悦子 / 山下 芳正
神庭 慎次 / 醍醐 孝典 / 檀上 祐樹 / 長生 大作 / 西上 ありさ

主催　「探られる島」プロジェクト実行委員会
協力　魅力あるいえしまをつくろう会 / studio-S / studio-L / 家島観光事業組合 /
NPO法人環境デザイン･エキスパーツ･ネットワーク

「探られる島」プロジェクトブック04

2008年11月1日発行
発行　studio-S
テキスト　醍醐 孝典
デザイン　神庭 慎次
編集　「探られる島」プロジェクト2008メンバー / studio-S
印刷　株式会社 プリントパック

本誌に関するお問い合わせは　studio-s@npo-eden.jp
※本誌掲載の写真、記事の無断転載はお断りします。

『いえしま』を発見しに行く人、今後も大募集。

http://www.npo-eden.jp/studio-s/

「探られる島」プロジェクト